

行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569

東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 馬場研究室内
Tel 03-5421-8739 (直通)
Fax 03-5421-8796

理事長の任期を終えて

杉山明子

日本行動計量学会の理事長を引き受けてから2期6年、その終わりが近づいている。当初、理事長の重責を果たせるかどうか不安を感じたものの、多くの方々に助けられて今日に至っている。ここにその6年を振り返ってみよう。

2000年に理事長に選出された際には、種々の分野にわたる会員の意向を汲み、「理論と応用のバランス」を計ること、「地方・若手・女性会員の活用」を課題に掲げた。

その現れが、大阪在住の欧文誌編集委員長、女性の和文誌編集委員長、女性の運営委員長、若手の広報委員長などであった。さらに各種委員にも地域差・年齢差・男女差を超えての協力をお願いした。

2期目の2003年には、学会を取り巻く環境の大きな変化の中であって、とくに「情報化への対応」と、「学会連合への参加のあり方」を課題にした。

編集委員会によって、学会誌の掲載論文を電子化し、インターネット上での無料公開の準備を進めている(J-stage)。広報委員会では、ホームページ上に学会情報を充実させる一方、メーリングリストによる登録会員への情報サービスを2003年に開始した。

近年盛んになった学会連合には、日本心理学諸学会連合、社会調査士資格認定機構、統計学関連学会連合、横断型基幹科学技術研究団体連合などの組織に加入した。学際的な学会を標榜し、広範囲の研究者の集団である本学会は関連する連合は数多く、それらのすべてに加盟することは人材面からも経費面からも無理である。そこで連合組織がどのようなメリットを本学会にもたらすかの観点に絞って再検討が迫られている。

さて、学会活動の基幹である総会・大会は、首都圏と地方とで隔年に、2000年の東京大学から、つづいて甲子園大学、多摩大学、名古屋大学、青山学院大学、2005年の長岡技術科学大学まで、それぞれテーマを定め、特徴ある大会を開催した。

大会は独立採算制をとっており、学会からの一時金のほか参加費や寄付で賄うのである。その中であって、2002年多摩大会での剰余金は、大会後シンポジウムなどの活動に提供された。また、新潟中越

地震後の2005年長岡大会は開催そのものを危惧したこともあったが、いざ開けてみると、新潟県・長岡市からの支援を受け、予想を大きく上回る430名の参加者を集め盛会であった。

2003年名古屋大会は、統計関連3学会との初の同時開催として、ソフトウェアの展示と懇親会を共催した。同時開催下にあって、発表件数、参加者数ともに増え、相乗効果が見られた。また初めて会員のための保育室を設置したのもこの名古屋大会であった。

いつも大会前日に開催しているチュートリアルセミナーを、2004年青山大会から大会初日に位置づけ、会期を4日にした。このチュートリアルセミナーや春の合宿セミナー、シンポジウムなどの活動を通じて若い学究の徒から「面倒見の良い学会」との評価を得ている。

学会創立して32年が経過した2005年に、学会員の高齢化に対応するため「シニア会員」制度を始めた。65歳以上の正会員で20年以上在籍の会員からの申告で理事会承認を経て、会費を正会員の半額4,000円にする制度である。学会誌・会報配布や選挙権などすべて正会員と同じ権利が与えられる。シニア会員第1号の誕生が待たれている。

2004年8月に突然(財)日本学会事務センターが破産した。東京地方裁判所での債権者会議に於いて、学会に戻される金銭はないことを告げられた。幸いにも、文部科学省の被害学会の救済のための学術刊行物出版助成が和文誌で認められたので、経済的被害は回復した。一方、学会事務センターの破綻に伴い、学会事務のあり方を洗い直しに迫られた。分散している学会事務すべて一括しての外注も検討したが、経費や実施体制の関係で、学会事務センターと同様に会員管理業務のみを、2005年4月から(株)国際文献印刷社に委託した。このように業務が正常に戻るまでには、破綻からほぼ1年が経過した。

以上の学会活動は、事務局長はじめ各委員長、担当理事、委員の献身的な働きに依っていることは言うまでもない。紙面の関係で一々お名前を挙げられないが、関係者すべてに、心よりの感謝を申し上げたい。

役員選挙の実施報告

選挙管理委員会

下記の通り、役員選挙結果をご報告致します。

実施概要

無記名投票による。理事5名、監事2名を記入。
投票締切：2006（平成18）年1月13日（金）当日消印有効

開票概要

日時：2006（平成18）年1月21日（土）10:00～14:00
場所：統計数理研究所 第1セミナー室
返送総数 87 通
有効投票 85 通
無効投票 2通（投票用紙を投票用封筒に未封入のもの）
理事投票通数 87 通（延べ投票数 411 票）
監事投票通数 77 通（延べ投票数 148 票）

開票結果

1. 理事当選者

飽戸 弘, 朝野熙彦, 足立浩平, 今泉 忠, 岩崎 学, 岩坪秀一, 植野真臣, 大隅 昇, 大津起夫, 岡太彬訓, 狩野 裕, 菊地賢一, 繁榊算男, 杉山明子, 鈴木督久, 千野直仁, 南風原朝和, 馬場康維, 林篤裕, 林 文, 前田忠彦, 丸山久美子, 柳井晴夫, 山岡和枝, 吉野諒三 以上 25 名（五十音順）

2. 監事当選者

柳原良造, 吉村 功 以上 2 名（五十音順）

以上

選挙管理委員会

林 文（委員長）, 前田忠彦, 森本栄一

訃報

武蔵野大学助教授林理先生が、2005年12月29日、くも膜下出血のためご逝去されました。享年44歳でした。林先生は、2000～2002年度に運営委員を務められました。謹んで哀悼の意を表します。

第9回春の合宿セミナーのお知らせ

今年の春のセミナーの概要は以下のとおりです。例年通り、非常に魅力的な講師陣をお願いしています。また、今回は特に数理システムさんのご好意でデータマイニング入門、テキストマイニング入門の参加者の方には、セミナーで利用したソフトの期限付きバージョンをお持ち帰りいただくこともできます。是非この機会にお試しください。懇親会も京都ならではの雰囲気を味わえるところを考えております。

この会報がみなさまの手元に届くころは、開催直前になるかと思います。人数制限のないコースもありますので、以下のHPから参加申し込みしていただき是非ご参加ください。

なお、最新の情報につきましては合宿セミナーのHP

<http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/bsj06/>

をご覧くださいと思います。

みなさまの参加を心よりお待ちしております。

企画担当：宿久 洋（同志社大学）

開催場所：同志社大学京田辺キャンパス

夢告館（MK302）、情報メディア棟（JM301, JM302）

アクセスマップ：http://www.doshisha.ac.jp/access/tanabe_access.html

キャンパスマップ：http://www.doshisha.ac.jp/access/tanabe_campus.html

開催日時：3月16日（木）～18日（土）

セミナー概要：<http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/bsj06/program.html>

S-Plus コース（先着 80 名）

1) S-plus 入門

2) Visual Mining Studio によるデータマイニング入門

3) Text Mining Studio によるデータマイニング入門

SPSS コース

1) SPSS 入門（先着 80 名）

2) SPSS による多変量解析 I－回帰分析－

3) SPSS による多変量解析 II－クラスター分析－

4) SPSS による多変量解析 III－因子分析－

社会調査コース（人数制限なし）

1) 社会調査の最前線－世論調査－

2) 社会調査の最前線－選挙予測調査－

3) 社会調査の最前線－国際比較調査－

クラスタリングコース（人数制限なし）

- 1) クラスタリング手法の理論と応用 I
- 2) クラスタリング手法の理論と応用 II
- 3) クラスタリング手法の理論と応用 III
- 4) クラスタリング手法の理論と応用 IV

日本行動計量学会第34回大会案内

大会実行委員長 丸山久美子

この度、日本行動計量学会第34回大会を2006年9月11日（月）から14日（木）の4日間、聖学院大学で開催することになりました。聖学院大学は新聞・雑誌、ポスター、などの宣伝広告を大々的に打って出る事をしませんので、この大学がどこにあるのかと問う声をしばしば耳にします。幼稚園から高等学校までの案内図は東京山手線の駒込駅に立て看板が見られますので駒込駅を下車すればよいということがわかりますが、大学・大学院は埼玉県の大宮と上尾の中間地点にあり、宮原駅（高崎線）、または日進駅（埼京線）を下車して徒歩20分程、スクールバスで5分のところにあります。宮原駅を下車して前方にそびえるチャペルの尖塔を目指して、新大宮バイパスを越えると聖学院大学の校舎に行き当たります。大学の創立理念はプロテスタント・キリスト教の教育理念である「神を仰ぎ、人に仕える」をモットーとしており、多くのミッション・スクールと同じです。聖学院大学のチャペルは広く公開されていますので、学会大会の総会や特別講演などをこのチャペルで行うというのも風情のある趣を添えることでしょう。

実は第3回の学会大会は青山学院大学の渋谷キャンパスで行われました。当時私は文学部の助手だったので、主任教授であった瀬谷正敏先生に実行委員長をお願いし、実質的にはすべて一人で大会を運営したという記憶がよみがえります。その当時は会員数が少なく、統計数理研究所の大講堂だけを利用して学会大会を開催していたのですから、青山学院大学で大会を開催するにしても、比較的容易に運営することができたのだと思います。そんなことを思い出していると、行動計量学会が設立された当時のことが脳裏をよぎります。1960年代後半から1970年代前半は大学紛争が吹き荒れた時代でどこの大学でも全共闘に占拠された大学は黒覆面をした彼らの生活の場となりました。大学は封鎖され、授業は行われず、連日大学の幹部は場所を変えて対策を練っておりました。したがって、研究活動は大学内では行われず、実験室も封鎖されたままです。困惑した私

は統計数理研究所の林知己夫先生の部屋に転がり込み、そこで勉強する許可を得ました。行動計量学会の大枠が決定したのはそんな状況下の時です。イリノイ大学のタッカー教授から学位を取得して帰国し、立教大学の社会学部へ奉職した新進気鋭の若い研究者池田央先生が中心となって「多変量解析シンポジウム」という研究会が発足しました。サイコメトリカに掲載されているタッカーの難解な論文や著書を読むことが出来ることは大変心弾むことでした。この研究会に参加していた当時のメンバーは東京大学の教育心理学研究室に関係の深かった社会学の安田三郎氏、柳井晴夫氏、高根芳雄氏、猪口孝氏などの計量心理学、計量社会学・政治学などの若手の研究者や学生たちでした。この研究会を学会規模に広げようとする意向がメンバーの中から沸き起こり、早速、学会の頭となる有力な知名度のある統計学者、社会学者・心理学者を説得する必要に迫られ、林知己夫先生に白羽の矢が当たり、先生を説得して我々の趣旨を理解していただくことが急務となりました。学会設立志向の強かった柳井晴夫氏が畏敬の念を持たれていた林先生に会うために統計数理研究所へオズオズとやって来た時の光景が今でも鮮やかに思い出されます。林先生は我々の情熱に感銘して学会の理事長を引き受けてくれました。当然、行動計量学を理解し共に背負ってゆくための若手の有望な研究者が望まれます。電子技術総合研究所（当時）の岩坪秀一氏、統計数理研究所（当時）の松原望氏、国立教育研究所（当時）の梶田勲一氏の3名が加わり事務局は当初この5人のメンバーで構成されました。欧文誌編集委員長は印東太郎先生、和文誌編集委員長は野元菊雄先生でした。

今日、林知己夫先生は彼我へ旅立ち、我々事務局員も当時の瞬発力を失っています。そんなわけで、今回の大会には学会設立当時の面々に登場を願っております。まさに、温故知新の意味で、この大会が設立当時の理念を思い出し、それを取り戻す縁となれば、大会実行委員長をお引き受けした甲斐があるというものです。

皆様方の積極的な参加をお願いいたします。大勢の方々が聖学院大学へ足を運んで下さり、そこで研鑽を積み、更に新たな精神のもとで研究活動に邁進することが出来ますように祈念いたします。



講習会「社会調査士教育における 多変量解析」

日本行動計量学会講習会「社会調査士教育における多変量解析」が開催されました。

日時：2005年11月27日（日）9:30～17:00

場所：多摩大学ルネッサンスセンター

（品川インターシティーA棟27F）

主催：「社会調査士教育における多変量解析」

共催：社会調査士資格認定機構、多摩大学

プログラム：

足立浩平（大阪大学）

多変量データ解析の諸方法—文科系での教育
法を考慮して—

木村邦博（東北大学）

既発表文献の図表を用いた「2次分析」の方
法—クロス集計表・相関行列などから多変
量解析へ—

中井美樹（立命館大学）

社会階層とキャリア・ライフスタイルの類型
化—クラスター分析と対応分析による検討
—

鈴木督久（株式会社日経リサーチ）

世論調査の実践的課題と選挙予測モデリング

オーガナイザー：岡太彬訓（立教大学）

参加者：50名

社会調査士制度が発足して2年余が経過したこともあり、社会調査士や専門社会調査士の資格取得に必要な統計関係科目の教育を意識した多変量解析の講習会を開催しました。今回の講習会は、社会調査士資格認定機構を通じて、日本行動計量学会と共に同機構の設立学会である日本社会学会と教育社会学会の会員にも参加を呼びかけました。参加者50名の内、日本行動計量学会員が14名、日本社会学会員が11名、教育社会学会員が1名（重複して数えています）です。3学会全ての会員となっている参加者も1名含まれ、従来の講習会に比べ参加者が多様化したという印象を受けました。

講習会の構成は、多変量解析の代表的な手法の解説に続いて、興味深い応用例についての解説があり、活発かつ有意義な講習会となりました。また、新幹線や羽田空港からのアクセスがよい会場であったこともあり、東京周辺のみならず広範囲からの参加者があり、その意味でも多様化が進み、かつ、実り多い講習会となりました。

第86回行動計量シンポジウム のお知らせ

運営委員会

開催日が過ぎる可能性が高いですが、学会からの広報資料として皆様にお知らせします。（運営委員会・広報委員会）

第86回行動計量シンポジウムは、東北行動計量学研究会のご尽力で東北大学21世紀COEプログラムとの協力により下記の要領で開催されることになりました。

時期がせまっております。参加希望の方は、可否について照会先（出欠返信先）までご確認ください。

国際シンポジウム

"Management of Social Problems and Justice in Group Contexts"のご案内

日本行動計量学会地域部会の東北行動計量学研究会では、このたび、下記の要領で、国際シンポジウムを開催することにいたしました。東北行動計量学研究会会員だけでなく、日本行動計量学会会員の皆様に、このシンポジウムのご案内を差し上げるとともに、皆様の積極的な参加をお待ちいたしております。

そこで、お忙しいところたいへん恐れ入りますが、シンポジウムおよびレセプションに出席を希望される方は、末尾にある、「返信用フォーム」にご記入の上、2月24日（金）までに、事務局の木村邦博（kkimura@sal.tohoku.ac.jp）あてお知らせいただければ幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

主催：東北行動計量学研究会（日本行動計量学会地域部会）

東北大学21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」

使用言語：英語

日時：2006年3月4日（土）午後1:00～5:30

（午後6:00～8:00 レセプション）

場所：東北大学川内南キャンパス教育学研究棟2階206教室

（参考）キャンパスマップ

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/map/map-kawa.html> ＊「(24) 文科系総合研究棟（教育学研究科）」と表記されている建物です。

交通アクセス

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/map/access.html> ＊「川内キャンパス」の項目をご参照下さい。

スケジュール

- 1:00～1:05 開会のあいさつ (COE プログラム公正部門長: 大淵憲一)
- 1:05～1:10 シンポジウムの趣旨の説明 (司会者)
- 1:10～4:05 研究発表
- 1:10～1:50 Nobuyuki Takahashi (Hokkaido University) Reactions to unfairness: Second-party punishment and third-party punishment.
- 1:50～2:30 Tomohiro Kumagai (Tohoku University) Procedural fairness, group identification, and third party aggression.
- (2:30～2:45 休憩)
- 2:45～3:25 Tom Postmes (University of Exeter) Group membership and well-being: Some social and psychological consequences of segregation.
- 3:25～4:05 Naomi Takada (Tohoku University) Forgiveness and the role of audience in conflict resolution.
- (4:05～4:20 休憩)
- 4:20～5:30 全体討論 指定討論者: 唐沢穰 (神戸大学)、木村邦博 (東北大学)
- 6:00～8:00 レセプション

国際シンポジウムおよびレセプション (2006年3月4日) への出欠について

(返信用フォーム)

返信先: 木村邦博 (東北行動計量学研究会事務局)
kkimura@sal.tohoku.ac.jp

期限: 2006年2月24日 (金)

お名前:

ご所属:

ご出欠: 国際シンポジウム 出席する / 出席しない
レセプション 出席する / 出席しない

日本行動計量学会第33回大会 総会議事録

日時: 2005年8月28日 (日) 13:00～13:50

場所: 長岡技術科学大学講義棟

記録: 菊地賢一

1. 開会の辞

馬場康維事務局長より、開会の挨拶があった。

2. 開催校挨拶

小島陽学長より、挨拶があった。

3. 学会挨拶

杉山明子理事長より、挨拶があった。

4. 議長選出

中村和男会員 (長岡技術科学大学) が、議長として選出された。

5. 報告および議事

5.1 平成16年度事業報告

- 1) 杉山明子理事長より、委員会等については各担当から報告することとして、平成16年度事業について総括的な説明があり、学会会員業務については、(財) 日本学会事務センターが破産したため、(株) 国際文献印刷社に委託することとなったこと、詳しくは、9/1発行の会報で報告を行うとの報告があった。
- 2) 繁柁算男編集委員長 (欧文誌編集委員長兼任) より下記の報告があった。
 - ・「Behaviormetrika」Vol.31, No.2, Vol.32, No.1を予定どおり発行した。
 - ・J-STAGEで Behaviormetrika の公開を開始した。
- 3) 吉野諒三和文誌編集委員長より下記の報告があった。
 - ・(財) 日本学会事務センター破産の影響で、少し遅れたが、「行動計量学」第31巻2号を発行した。また、第32巻1号を予定どおり発行した。
- 4) 山岡和枝運営委員長より下記の報告があった。
 - ・3件の研究部会活動が行われた。
 - ・第80回、81回、82回、83回、84回行動計量シンポジウムを開催した。
 - ・第1回行動計量講演会を開催した。
 - ・大会チュートリアルセミナーを開催した。
 - ・第8回春の合宿セミナーを開催した。
- 5) 菊地賢一広報委員長より下記の報告があった。
 - ・会報、第101～104号を発行した。
 - ・学会 Web ページの更新を行った。
 - ・会員向けメールリングリストの運用を行った。

5.2 平成16年度決算報告

馬場康維事務局長より、平成16年度決算報告 (案) が提案された。

5.3 平成16年度会計監査報告

- ・柳原良造監事より会計監査の結果、事実のとおり相違ないとの報告があった。ただし、吉村功監事が国外にいるため、仮報告である旨の注意があった。本報告は会報発行時に行うこととなった。なお、監事欠席の事態に備えた規則の変更の必要性が指摘された。
- ・業務監査については、学会事務局の負担を軽減する必要性が指摘された。

最後にこれらの決算報告案、会報で本報告を行うことも含めた監査報告が承認された。

5.4 平成17年度事業計画

- 1) 杉山明子理事長より、下記の提案があった。
 - ・各委員会、担当は、例年どおり事業を行う計画である。
 - ・来年度の大会は、聖学院大学で、丸山久美子理事を大会実行委員長として行う。
 - ・学会役員の改選に際して、林文理事を選挙管理委員長とするとの報告があった。
- 2) 杉山理事長より社会調査士資格認定機構を法人化する方針について提案があった。
事業報告は承認された。

5.5 平成17年度予算

平成17年度予算(案)が馬場康維事務局長より提案され、承認された。

5.6 名誉会員の推薦

岩崎学名誉会員担当理事より、木下富雄氏、古川俊之氏が推薦され、承認された。

6. 学会賞授与

岩坪秀一学会賞選考委員長より、授賞理由の報告があった。以下の方々に学会賞が授与された。

- 林知己夫賞(功績賞)
久保武士氏(龍ヶ崎済生会病院)
- 林知己夫賞(優秀賞)
藤井聡氏(東京工業大学)
- 肥田野直・水野欽司賞(奨励賞)
森本栄一氏(株式会社ビデオリサーチ)

7. 次回(第34回)大会開催校挨拶

丸山久美子第34回大会実行委員長より、挨拶があった。

8. 大会実行委員長挨拶

植野真臣大会実行委員長より、挨拶があった。

9. 閉会の辞

馬場康維事務局長より、閉会の挨拶があった。

照会先: 数理社会学会研究事務局
(数理社会学会研究理事 土場 学)
〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学大学院社会理工学研究科
Tel & Fax: 03-5734-3192
E-mail: jams@soc.titech.ac.jp
URL: <http://www.soc.titech.ac.jp/~doba/jams.htm>

☆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 第55回シンポジウム

会 期: 2006年3月13日(月)
会 場: 中央大学(後楽園キャンパス)
実行委員長: 加藤直樹(京都大学)
テーマ: データ解析の最前線
(マーケティング、金融、生産管理等の分野におけるデータ分析に焦点を当て、ORの技術が現実活かされているということをお話いただける方々の講演)
講師(敬称略): 鷲尾 隆(大阪大学), 小野 潔(UFJ銀行), 大澤幸生(東京大学), 矢田勝俊(関西大学)
照会先: 社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル 3F
E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp
Tel: 03-3815-3351(代), Fax: 03-3815-3352
URL: <http://www.ise.chuo-u.ac.jp/or2006s/sympo55/sympo1.html>

☆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2006年春季研究発表会

会 期: 2006年3月14日(火), 15日(水)
会 場: 中央大学(後楽園キャンパス)
実行委員長: 田口 東(中央大学理工学部)
特別テーマ: モデリング
特別講演(特別セッション): 3月14日午後
講師: 伊理正夫(東京大学名誉教授), 飯田裕康(労働科学研究所), 滝根哲哉(大阪大学), 赤池弘次(統計数理研究所名誉教授)
照会先: 社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル 3F
E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp
Tel: 03-3815-3351(代), Fax: 03-3815-3352
URL: <http://www.ise.chuo-u.ac.jp/or2006s/index.html>

☆ 第2回日本感性工学会春季大会

会 期: 2006年3月24日(金), 25日(土)
会 場: 広島国際大学広島キャンパス(国際教育センター) 広島県広島市中区幟町 1-5
照会先: 日本感性工学会
常設事務局 URL: http://www.jske.org/main_jp.html
E-mail: jskeconf@jske.org

関連学会等カレンダー

※注意: 本コーナーの情報は、幅広い専門分野にわたる会員の皆さまに、なるべく多くの催し物の存在をお知らせするために編集担当側で収集・要約したものです。プログラムや参加方法については、必ず各催事末尾に掲載の「照会先」にご確認下さい。

<学協会大会・定例シンポジウム等>

☆ 第41回数理社会学会大会(創立20周年記念大会)

会 期: 2006年3月3日(金), 4日(土)
会 場: 東京大学

☆ 第 32 回日本保健医療社会学会

会 期：2006 年 5 月 13 日（土）、14 日（日）
 会 場：東京・立教大学池袋キャンパス
 代表者：木下康仁（立教大学教授）
 照会先：立教大学社会学部社会学科木下康仁研究室
 Fax: 03-3985-2310
 常設事務局 URL: <http://square.umin.ac.jp/medsocio>
 E-mail: z3000329@rikkyo.ne.jp

☆ 日本計算機統計学会第 20 回記念大会

会 期：2006 年 5 月 20 日（土）、21 日（日）
 会 場：同志社大学京田辺キャンパス
 大会委員長：村上征勝（同志社大学）
 大会事務局：宿久 洋（同志社大学）
 参加費（当日支払）：一般会員 5,000 円、賛助会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、非会員 7,000 円、事前振り込みは各 500 円割引。
 照会先：日本計算機統計学会大会事務局
 〒 610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3
 同志社大学文化情報学部内
 E-mail: jscs06@mail.doshisha.ac.jp
 Tel & Fax: 0774-65-7662
 URL: <http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/jscs06/index.html>

☆ 2006 年度日本計量生物学会シンポジウム

会 期：2006 年 5 月 25 日（木）
 5 月 26 日（金）午前にチュートリアル（別掲）
 会 場：国立保健医療科学院講堂
<http://www.niph.go.jp/access/index.html>
 （〒 351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6）
 テーマ：複雑な観察データの解析
 複雑なデータの解析に関する最近の理論展開と応用を踏まえ、また疫学やバイオインフォマティクス・環境等への応用を意識して、シンポジウムテーマを「複雑な観察データの解析」としました。
 特別セッション：オーガナイザ 丹後俊郎（国立保健医療科学院）テーマ 空間疫学の新展開－New Development of Spatial Epidemiology
 参加費：正会員 3,000 円、非会員 5,000 円、学生（正会員、非会員とも）1,000 円
 照会先：日本計量生物学会事務局
 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F
 （財）統計情報研究開発センター内
 E-mail: biometrics@sinfonica.or.jp, Fax: 03-5467-0482
 URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jbs/simpo2006an.html>

☆ 応用統計学会第 28 回シンポジウム

会 期：2006 年 5 月 27 日（土）
 5 月 26 日（金）午後にチュートリアル（別掲）
 会 場：国立保健医療科学院講堂
<http://www.niph.go.jp/access/index.html>
 （〒 351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6）

テーマ：応用統計学の起点と 21 世紀における展望を探る－学会設立 25 周年の節目を迎えて－
 今年で本学会は、設立 25 周年目を迎えます。そこで今回のシンポジウムでは、25 周年記念シンポジウムとして、21 世紀の電子情報社会、知識創造社会を支える学問領域としての応用統計学の起点の再確認と魅力的な新領域への展望を中心に、幅広い議論や討論を行いたいと思います。関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

特別講演：

- ・ 広津千尋（明星大学）「応用統計学は進化する」
- ・ 柴田義貞（長崎大学）「応用統計学のアイデンティティー」
- ・ 清水邦夫（慶応大学）「方向統計学（Directional Statistics）の最近の話題」

参加費：正会員 3,000 円、非会員 5,000 円、学生（会員、非会員とも）1,000 円

照会先：応用統計学会事務局

〒 107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F
 （財）統計情報研究開発センター内
 E-mail: applstat@sinfonica.or.jp, Fax: 03-5467-0484
 URL: <http://www.applstat.gr.jp/>

<研究集会等>

☆ 研究開発領域「脳科学と社会」

第 2 回情報統計ワークショップ

「発達コホート調査と脳科学の方法的接点」

～真の学際的協調を目指して～

会 期：2006 年 3 月 18 日（土）13:00～17:30

会 場：学士会館 202 号室（12:30 開場）

（東京都千代田区神田錦町 3-28）

<http://www.gakushikai.or.jp/facilities/index.html>

主 催：独立行政法人科学技術振興機構

社会技術研究開発センター

定 員：150 名※事前登録が必要です

プログラム概要：講演 3 件とパネルディスカッション
 {第 1 部：縦断的調査解析の立場から}

講演 1. 山口一男（シカゴ大学）「コホート・パネル調査データへの潜在クラス分析の応用について」

講演 2. 星野崇宏（東京大学）「調査・準実験からの因果推論法と縦断調査データへの適用」

{第 2 部：脳科学の立場から}

講演 3. 定藤規弘（生理学研究所）「脳機能画像解析法が発達心理学に寄与できる点」

{第 3 部：パネルディスカッション}

「発達研究における異なる方法間の協調を目指して」

申し込み方法：

下記の URL より、または Fax にて申し込み
<http://www.ristex.jp/>

申込・照会先：ワークショップ事務局

株式会社プライムインターナショナル内

〒 150-0012 渋谷区広尾 2-2-19 広尾ハイツ 2F

Tel: 03-5467-5539, Fax: 03-5467-5538

E-mail: brain_sta@prime-intl.co.jp

URL: <http://www.prime-intl.co.jp/brain-science-statistics/>

☆ QOL 研究会 (第56回)

会 期: 2006年4月15日(土)
 会 場: 大阪市・大阪大学中之島センター10階
 佐治敬三メモリアルホール
 代表者: 大橋一友(大阪大学教授)
 照会先: 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
 Tel & Fax: 06-6879-2533
 常設事務局URL: <http://www.nona.dti.ne.jp/~qolmanda>
 E-mail: qolmanda@nona.dti.ne.jp

☆ 日本統計学会研究集会

日本統計学会 75 周年記念事業

「21世紀の知識創造社会を支える統計科学の現状と展望」5月研究集会

会 期: 2006年5月6日(土), 7日(日)
 会 場: 東京大学本郷キャンパス(浅野地区)
 武田ホール
 実行委員長: 竹村彰通(東京大学)
 プログラムの概要: [セッション名(仮)とオーガナイザ及び基調講演]
 セッション1「日本の統計制度の改革方向—戦後60年の歴史をふまえて」舟岡史雄(信州大学)
 セッション2「人口減時代に向けた統計からの課題と展望」小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)
 セッション3「金融・保険の統計学」国友直人(東京大学)
 セッション4「情報量規準の展望」小西貞則(九州大学)
 セッション5「統計的因果推論と知識創造」狩野 裕(大阪大学)
 基調講演 竹内 啓 明治学院大学国際学部
 照会先: 東京大学大学院情報理工学系研究科 竹村彰通
 E-mail: takemura@stat.t.u-tokyo.ac.jp
 日本統計学会 75 周年事業委員会 HP
 URL: <http://www.math.chuo-u.ac.jp/%7Esugiyama/jss75/>

☆ 女性のための抗加齢医学研究会 (第5回)

会 期: 2006年5月14日(日)
 会 場: 横浜市・横浜市開港記念会館
 代表者: 鈴木信孝(金沢大学教授)
 照会先: 日本補完代替医療学会
 Tel: 076-265-3900, Fax: 076-265-3901
 常設事務局 URL: <http://www.AntiAge.jp>
 E-mail: anti-age@nifty.com

<チュートリアル・セミナー等>

☆ 日本計量生物学会チュートリアル

会 期: 2006年5月26日(金) 10:00 - 12:30
 (時間は若干変更の可能性あり)
 会 場: 国立保健医療科学院講堂
<http://www.niph.go.jp/access/index.html>
 (〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6)
 参加費: 正会員 2,000 円, 非会員 5,000 円, 学生(正会員, 非会員とも) 1,000 円
 テーマ: 「R による生物統計解析」

講師と演題:

中澤 港先生(群馬大学大学院医学研究科)「Rを用いた生物統計解析入門」

吉村公雄先生(国立がんセンター)「ゲノム解析における R の利用」

申し込み方法: 参加希望者は、チュートリアル・セミナー申込用紙(WORD、PDF)に、1) 氏名(フリガナ)、2) 会員(応用統計学会員を含む)・非会員・学生、3) 所属・連絡先(メールアドレスがあれば必ず記載)を明記の上、メールもしくはFAXで5月18日(木)までに下記照会先宛て申込。

照会先: 日本計量生物学会事務局

〒107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F

(財) 統計情報研究開発センター内

E-mail: biometrics@sinfonica.or.jp, Fax: 03-5467-0482

<http://www.soc.nii.ac.jp/jbs/tutorial2006.html>

☆ 応用統計学会チュートリアル

会 期: 2005年5月26日(金) 13:30 - 17:00

会 場: 国立保健医療科学院講堂

<http://www.niph.go.jp/access/index.html>

(〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6)

参加費: 正会員 2,000 円, 非会員 5,000 円, 学生(正会員, 非会員とも) 1,000 円

テーマ: 「観察データからの因果分析—共変量調整の立場から—」

オーガナイザー: 渡辺美智子(東洋大学)

講師と演題:

狩野 裕(大阪大学大学院基礎工学研究科)「SEMによる因果分析入門: パス解析から傾向スコアまで」

星野崇宏(東京大学大学院総合文化研究科)「傾向スコアを用いた準実験及び観察研究からの因果分析について」

申し込み方法: 当日会場にて直接申し込み。特に事前に参加希望の申し込みは必要なし。

照会先: 応用統計学会事務局

〒107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F

(財) 統計情報研究開発センター内

E-mail: applstat@sinfonica.or.jp, Fax: 03-5467-0484

<http://www.applstat.gr.jp/>

公募・求人情報

本コーナーでは計量的手法や社会調査、統計学と関係が深いと思われる公募を中心に、公募情報を抜粋して紹介します。以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。

なお、研究者の公募情報は、例えば独立行政法人科学技術振興機構の「研究者人材データベース(JREC-IN)」で参照することができます。URLは下記の通りです。ご活用をお勧めします。

<http://jrecin.jst.go.jp/>

以下には上記JREC-INに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。原則として、本学会に直接広報依頼のあった公募については詳細に情報を記載します。

☆ 神戸大学発達科学部

1. 募集人員：助教授1名
2. 所属：人間環境学科
3. 専門分野：数理統計学
4. 担当授業科目：
 - (1) 数理情報環境論コースの専門科目(数理統計の基礎、応用統計学等)
 - (2) 学部・学科共通科目
 - (3) 全学共通授業科目(線形代数学、微分積分学、数理統計学等)
 - (4) 大学院の授業科目(統計解析特論、統計解析特論演習、応用統計解析特論)
5. 着任時期：2007年4月1日
6. 公募締切：2006年3月31日必着
7. 照会先：神戸大学発達科学部人間環境学科
数理情報環境論コース主任 高橋譲嗣
E-mail: koubo2006@main.h.kobe-u.ac.jp
Tel: 078-803-7787, Fax: 078-803-7898

☆ 名古屋大学大学院環境学研究科

1. 募集人員：助教授または講師1名
2. 所属：社会環境学専攻社会学講座
3. 専門分野：社会学、環境社会学
4. 担当授業科目：大学院：環境社会学など。情報文化学部：環境社会学(予定)、社会調査法など。全学教育：社会と環境など。
5. 着任時期：2006年10月1日
6. 公募締切：2006年3月31日必着
7. 照会先：名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻長 溝口常俊
E-mail: k46523a@cc.nagoya-u.ac.jp, Tel: 052-789-2235

☆ 富山大学一般教養・数学系

1. 募集人員：教授1名
2. 担当授業科目：数学(解析学、線形代数学、確率序論、統計学、情報処理学等)に関する講義
3. 対象学生：医学部及び薬学部の1～2年生を主とする(大学院授業も可)
4. 着任時期：2006年9月1日
5. 公募締切：2006年4月17日(月)17時必着
6. 照会先：折笠秀樹(horigasa@ms.toyama-mpu.ac.jp)

☆ 筑波大学教員公募

1. 職名・人数：助教授または講師1名
2. 所属：筑波大学大学院システム情報工学研究科
3. 教育：第三学群社会学類
システム情報工学研究科社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻、及び社会システム・マネジメント専攻
4. 研究分野：経営工学(管理会計、マーケティングサイエンス、IT・ネットワークなど)

5. 応募資格：次の条件をともに満たしていること。
 - (1) 博士またはPh.D.の学位を有するか、その見込みであること。
 - (2) 助教授の場合は4編以上、講師の場合は1編以上の審査付き学術論文が公刊または採択されていること。
6. 採用時期：平成18年10月1日(予定)
7. 選考方法：(1)書類審査(2)セミナー発表・面接
8. 提出書類：(1)履歴書(2)研究業績一覧(論文は、審査の有無を明示すること)(3)論文等の別刷りまたはコピー(4)推薦者1名の氏名・連絡先
提出された書類は、返却いたしません。
9. 応募締切：平成18年4月30日消印有効
10. 問合せ及び提出先：
 〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学大学院システム情報工学研究科
社会システム・マネジメント専攻教授 高木英明
Tel: 029-853-5003, Email: takagi@sk.tsukuba.ac.jp

☆ 青山学院大学国際政治経済学部

1. 職名・人数：助教授または講師1名
2. 所属：国際政治経済学部
国際コミュニケーション学科
3. 研究分野：コミュニケーション学、社会学、社会心理学、またはその他の関連領域
4. 教育：(1)国際的な環境におけるコミュニケーション事象について、社会科学的アプローチから研究・教育・論文作成指導ができること。(2)コミュニケーション研究における統計学(共分散構造分析などの多変量解析を含む)関連科目および専門科目を学部および大学院において、日本語(必要に応じて英語)で授業ができること。(3)学部および大学院において、コミュニケーション学関連のゼミを担当できること。
5. 採用時期：2007年4月1日
6. 選考方法：第一次審査：書類選考 第二次審査：業績審査 第三次審査：面接・模擬授業審査
7. 応募締切：2006年5月9日必着
8. 照会先：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学学務部教務課
国際政治経済学部担当 中津昌義
Tel: 03-3409-8111

会員の著書等

- ☆ 朝野熙彦・小島隆矢・鈴木督久『入門共分散構造分析の実際』講談社、2005年。
- ☆ 岩崎 学『統計的データ解析入門ノンパラメトリック法』東京図書、2006年。

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

4月より、新編集委員会に移行します。それに伴いまして、投稿先が変更となりますので、御承知おきください。また、J-STAGEにて、論文の公開を始めました。下記URLをご参照ください。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbhmk/>

論文送付先

〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7

文部科学省統計数理研究所内

「行動計量学」編集委員長 吉野諒三

e-mail: yoshino@ism.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系

欧文誌編集委員長

繁樹算男

kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp



日本行動計量学会会員数

(2006年1月13日現在)

正会員	1033名
準会員	99名
名誉会員	8名
賛助会員	19社

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株) 国際文献印刷社内

日本行動計量学会係

電話：03-5389-6209

FAX：03-3368-2822

E-mail: bsj-post@bunken.co.jp

担当：貞明靖教（さだみょう・やすのり）

編集後記

恒例となりました春の合宿セミナーですが、まもなく開催されます。特に、若手の研究者の皆様、ふるってご参加ください。

我々が作成を担当する会報は、今号をもちまして最後になります。いたらぬ点なども多々あったかと思いますが、ご愛読ありがとうございました。担当は変わりますが、引き続きご愛読ください。

今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。（もちろん、ご本人の関係される大会や著書でもかまいません。）

日本行動計量学会 Web ページ

<http://www.soc.nii.ac.jp/bsj/index.html>

春の合宿セミナー Web ページ

<http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/bsj06/>

会報原稿送付先

皆様からの情報をお待ちしております。

〒274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1

東邦大学理学部情報科学科

菊地賢一 kikuchi@is.sci.toho-u.ac.jp

TEL & FAX: 047-472-1182

題字：林知己夫

会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子